

2026（令和8）年度

日本大学法学部一般選抜

# A 個別方式

第1期

【試験問題の出題意図】

国 語
-----

「現代の国語、言語文化（漢文を除く）」

現代文2題（ⅠⅡ）、古文1題（Ⅲ）を出題した。大問ⅠⅡⅢの全てに、文章の部分的な意味を問う設問、並びに文章全体の内容に関する正誤を問う設問の両方を出題した。また、大問ⅠⅡⅢのいずれかにおいて、実社会で必要な語句の意味・用法・表記に関する設問と、古典の世界に親しむために必要な語彙や文法のきまり、我が国の文化の中での特質に関する設問を出題した。

Ⅰ 現代におけるケアと女性の権利・地位に関する総合的な大問 出題文は、自立を旨とする社会に対して著者が論評し、併せて女性の権利の歴史と現状について説明した文章。自立した主体という枠に入れない人々や女性の権利について論じた評論文を、与えられた情報をもとに正確に読解できているかを試す意図で出題。書くこと・読むことに関する記述式問題を含む点が特徴的といえる。

Ⅱ 病気に関する「知る権利」などを扱った評論に関する総合的な大問 出題文は、医療と癌告知の問題と「知る権利」に関する文章。著者の見解と扱われている事柄の複雑性を、筋道立てて正確に理解ができているかを試す意図で出題。本文中に記載された内容の理由・説明を多く問う点に特徴がある。

Ⅲ 歴史上の人物に関する説話を記した文章に関する総合的な大問 単なる事実の羅列ではなく歴史上の人物の動向が巧みに表現されている文章に関して、古典独特の語彙・表現・言葉のきまりなどの基本から、様々な説明を問う応用問題まで幅広く試す意図で出題。簡潔で平易な文章であるが、その叙述から登場人物の行動・関係性を読み解く必要があり、それにかかわる理由・説明・原因を問う設問を多く出題している点が特徴的といえる。

以 上

## 大問Ⅰ（長文読解・語彙理解問題）

この設問は、英語によるコミュニケーションにおける「読むこと」の領域を中心に、語彙・表現・文法の知識を活用して的確に情報を理解する力を問うことを目的としている。特に「外国語による聞くこと、読むこと、話すこと、書くことの言語活動及びこれらを結び付けた統合的な言語活動」を通して育成される資質・能力（高等学校学習指導要領 外国語 第8節 第1款（1）（2））に対応している。

また「論理・表現Ⅰ」「論理・表現Ⅱ」「論理・表現Ⅲ」の「思考力、判断力、表現力等」に関する能力、すなわち情報を整理して論理的に読み取り、語の意味や文脈を適切に解釈する力も問われている。

## 大問Ⅱ（正誤問題）

この設問は、英語によるコミュニケーションにおける「読むこと」の領域を中心に、文章の大意を的確に理解する力を問うことを目的としている。これは「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「英語コミュニケーションⅢ」における「読むこと」の領域、特に「社会的な話題」について、「必要な情報を読み取り、概要や要点、詳細を目的に応じて捉える」力を育成することを目的としている。

## 大問Ⅲ（会話文空所補充問題）

この設問は、実際のコミュニケーション場面を想定し、「話すこと [やり取り]」領域における即時的な応答力を問うものである。「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「英語コミュニケーションⅢ」で定められている「話すこと [やり取り]」の目標（例えば、「日常的な話題」についてやり取りを行い、「情報や考え、気持ちなどを話して伝え合うやり取り」を行う活動）に対応している。

加えて、論理的な展開を意識しつつ、自然な表現を組み合わせる能力を求めており、「論理・表現Ⅰ」「論理・表現Ⅱ」「論理・表現Ⅲ」の実践的な言語運用能力の涵養も視野に入れている。

#### 大問Ⅳ（文法・語法問題）

この設問は、基礎的な語彙・表現・文法事項を、実際のコミュニケーション場面で正確に活用する力を問うことを目的としている。特に「英語コミュニケーションⅠ」「英語コミュニケーションⅡ」「英語コミュニケーションⅢ」の「知識及び技能」を体系的に定着させることを狙っており、これらの知識が「聞くこと、読むこと、話すこと、書くこと」に適切に活用できるかを評価する。

#### 大問Ⅴ（整序問題）

この設問は、英語の語順や論理的な構成について理解し、正しい文を構成する力を問うものである。「論理・表現Ⅰ」「論理・表現Ⅱ」「論理・表現Ⅲ」における「論理の構成や展開及び表現」についての理解と実践を促すことを目的としている。

特に、文を組み立てる際の論理的思考、語彙・文法の統合的運用を評価し、「情報を整理しながら」、「論理的に表現する力」を養う指針と深く関連している。

以 上

I 古代・中世に関する大問。古代宮都の変遷図と中世の政治・経済・外交上の主要都市を示した地図を掲げ、個々の歴史的事象を地図と結びつけて理解できているかを問うた。古代・中世の政治・社会・文化について基礎的知識を幅広く問うとともに、歴史の流れを単に知識として身につけるのではなく、その舞台となった地域の特徴や背景とともに考えられているかどうか、歴史的思考力・判断力を問うことを意図して出題した。

II 政治や文化を中心に、近世の幅広い知識を問う大問である。豊臣政権に関する会話文をもとに、当時の対外関係や江戸時代の社会に関する問題も交えつつ、古代・中世から近世への歴史的変遷が理解できているかを問うことを意図している。また史料問題は、基礎的な知識だけでなく、内容の読解力も試す問題となっている。

III 「パイナップルの歴史と日本」に関わる生徒のレポートという想定での問題文に即し、学習指導要領における歴史総合の枠組としての「産業化」「大衆化」「グローバル化」に関連して、各時代の特質の理解を問う設問を作成した。記憶力をだけを問う一問一答式問題を排し、正誤問題や年代整序問題を通じて、教科書の基礎知識を活用・総合して、高校教育で身につけるべき歴史的思考力・判断力、史料やグラフ読み取りの技能を活用すれば十分に解答可能な問題である。

IV 「日本人とは誰か」という問いを手がかりとして、20世紀の日本が辿った歴史的な歩みに関する知識の有無を試す問題となっている。それは、東アジアのなかの日本という視点から、日本と他の国家・地域との結び付きに対する理解力と、歴史が、今、ここに生きている私たちと、いかに分かちがたい関係を有しているのかという観点から歴史的思考力を問うものである。本問は、史実についての記憶力だけでなく、史実と史実を連関させて正解を導く力の重要性を照らし出している。

以 上

- I 古代ローマに関する基礎的知識、出題された年表や問題文の正確な読み取り、基礎的知識と読解によって得た情報とに基づき論理的な思考を問う問題として作成されている。特に、古代ローマに関わる事象を年代に着目しながら考察する能力を問う設定がなされている。
- II イスラーム史に関する知識、出題された問題文の正確な読み取り、基礎的知識と読解によって得た情報とに基づき論理的な思考を問う問題として作成されている。特に、イスラーム史の事象のつながりの理解を問う設定がなされている。
- III 産業革命に関する基礎的知識、出題された問題文の正確な読み取り、基礎的知識と読解によって得た情報とに基づき論理的な思考を問う問題として作成されている。特に、産業革命に関わる事象を年代に着目しながら考察する能力を問う設定がなされている。
- IV 冷戦期の世界に関する基礎的知識、問題文の正確な読み取り、基礎的知識と読解によって得た情報とに基づき論理的な思考を問う問題として作成されている。特に、会話文から歴史に関する様々な情報を適切に読み取る能力を問う設定がなされている。

以 上

- I 憲法に関する大問 男女平等や性的少数者の権利保障を中心に、法の下での平等及びその具体的な実現方法についての基礎的知識・理解を問う問題を出題している。単に知識を問うのではなく、現在に至るまでどのようなかたちで具体的に権利の実現がなされていったのかを問うという特徴がある。
- II 政治・行政に関する大問 国家公務員や地方公務員を中心に据えて、政治・行政に関する基礎的知識・理解を問う問題を出題している。行政がどのような政治的枠組みにおいて活動をしているのか、行政のシステム自体をどのように変革してきたのかという、行政のダイナミズムについての理解を問うような出題をしている。
- III 経済学に関する大問 資本主義や社会主義などの経済思想に関する基礎的知識・理解や市場に関する基礎的知識・理解を問う問題を出題している。機会費用については具体的な数値を踏まえながら思考させたり、情報の非対称性についても具体的な事例に即して思考させるなど、概念や定義を単に抽象的に暗記するのではなく、具体的事例に即して理解することを求めている。
- IV 現代の国際経済に関する大問 戦後の日本と世界の関わりに関する記事を題材としながら、現代の国際経済に関する基礎的知識・理解を問う問題を出題している。基礎概念の定義を端的に問う一方で、比較生産費説についての設問のように、数値例を使って定義を厳密に理解しているかを問う問題も設定している。

以 上

## 数 学

- I 小問 4 題、複素数を含む高次方程式の問題、数列における部分和の問題、対数関数の問題、確率の問題によって構成されている。幅広い分野の基礎的知識と応用力を問う問題として構成されている。
- II ベクトルに関する大問。ベクトルの内積およびその基本的な性質についての理解を中心に、ベクトルに関する思考力、判断力の理解を問う問題で構成されている。
- III 三角関数に関する大問。三角関数の合成、加法定理などの種々の性質を確認する問題で構成されている。
- IV 微分・積分に関する大問。絶対値を含む放物線とそれと交わる直線に関する問題である。微分・積分に関する思考力や判断力、計算方法への理解を問う問題で構成されている。

以 上